

島根の

医療格差について 学びました ☺



島根民医連の奨学生会議を、9月17日(木)に「医療格差」についてのテーマで行いました。初めに、松江生協病院の鈴木医師から、県内の生保の現状や県内の正規労働者、非正規労働者の実数と比率の推移などを学生に提示し、島根の貧困問題と絡めながら、医療格差がどのようにして起こってしまうのかを講演しました。また、島根県は横に長い県なので、東部と西部での医療格差が問題になっています。県庁所在地のある松江市を含む県東部では、医療機関が県全体の60%以上を占め、医師・看護師の数も70%近くがこのエリアに集中。その一方で、県西部や離島では、施設・医療従事者の数が少なくなっているという地域格差ともいえる状況です。そのため、島根県の西部では、医師不足によって重症患者の受け入れが厳しく、遠距離にある東部の病院まで搬送せねばならない場合も多くあります。このように、医療格差の根本には、慢性的な医師不足という問題があるのだと学びました。学習会に参加した学生には県西部出身の学生もあり、「学生時代には、あまり医療格差を肌で感じる場面は少ないと思うが、実際故郷に帰ってみると、医師として帰ってきてほしいという声をたくさん聞く。自分はその声に応えたいと思う。」という言葉も聞かれ、学生の地域への思いを知ることもできました。

普段、県内の医療の現状について学ぶ機会はありませんので、自県が抱える問題点を改めて知ることができる、貴重な機会となりました。

◎学生の感想◎

●これまで島根の医療の現状についてあまり知らなかったが、やはり地域によって病院数や医師数に大きく差があり、それによって医療資源の不足している西部では分娩ができなかったり、心肺停止の対応が遅れたりといった問題が生じているということが印象的だった

●医療という命や生活に直結するものは本来住んでいる場所や経済状況などの生活背景によってアクセスに差があってはいけないものであるはずだが実際にその解決方法となると難しいことがわかった

●まだ見たことのない西部の医療や人口について考えることができてよかった。また島根全体での問題も感じることもできた。島根に残ることが必要だと思った。

●生活保護を受けている人の人数やワーキングプアの割合を知れてよかった。思ったより多く、身近に感じた

●格差を是正するにはその地域の医療のことだけでなく、経済や地域振興についても考えていかなければいけないと思った

現場から救急搬送 (病着)までの時間

収容所要時間別搬送人員調

事故種別	10分未満		10分以上 20分未満		20分以上 30分未満		30分以上 60分未満		60分以上 120分未満		120分以上		計	収容最短 所要時間 (分)	収容最長 所要時間 (分)	収容平均 所要時間 (分)	
	うち 管外	うち 管外	うち 管外	うち 管外	うち 管外	うち 管外	うち 管外	うち 管外									
松江市消防本部	5	0	977	4	3176	24	2780	203	134	50	3	1	7075	282	7	281	29.6
江津邑知消防本部	1	1	67	0	360	1	1323	321	650	436	15	11	2416	770	7	240	49.2
浜田市消防本部	4	0	343	0	885	8	1418	134	146	35	12	12	2808	189	4	181	34.2
益田広域消防本部	0	0	365	0	820	1	1210	12	331	45	6	4	2732	62	10	326	37.2